

令和6年度広島キャンパス卒業式・大学院学位記授与式 学長式辞

ご卒業並びにご修了まことにめでとうございます。併せて皆さんをこれまで支え、励まして来られました保護者の皆様に対しまして、あらためて心よりお祝いを申し上げます。

また、広島県知事代理としてご出席いただいている副知事山根健嗣（やまねたけし）様をはじめ、多くの御来賓の方々のご臨席のもと、253名の皆さんの門出をお祝いできますことは、私たち教職員一同の最も喜びとするところであります。

ところで、日本において、2020年1月に中国武漢市より帰国した男性に初のコロナウィルス感染が確認されて、今年で5年経ちました。一昨年5月8日から5類感染症に移行しましたが、昨年8月までで新型コロナウイルスで亡くなった人は日本国内で約13万人に上っています。今でも能登半島地震の避難所などで新型コロナウイルス感染が相次いでいます。まだまだ注意しなければなりません。

新型コロナウイルスのパンデミックは、社会を変えました。その影響は暮らし、仕事、教育、娯楽といった人の営みの隅々にまで及び、少子化を一気に加速させました。対面や移動が制限されて社会経済活動が停滞する一方、オンライン化が進み、日本のデジタル化の遅れも露呈しました。ロシア革命後の急激な変化について、レーニンが言った言葉があります。

「何ごとも起きない数十年もあるが、数十年分のことが数週間で起きることもある」と。これはコロナウィルスのパンデミックで世の中に起きたことがまさに当たっているのではないのでしょうか。コロナウィルスはビジネスにおいて、大きな変化をもたらしました。2020年初頭、小売業におけるデジタル取引の割合は約16%でした。それが、ウィルスがアメリカに広がり始めてから8週間で27%にまで跳ね上がったのです。それまでeコマースは毎年約1%ずつ成長してきましたから、わずか8週間で10年分の成長を遂げたということになります。コロナウィルスの長期にわたる特徴として、物事を大きく変化させる作用よりも、物事を加速させる作用のほうが強いことが挙げられます。世の中ですでに起きている変化をどんどん加速させて大きくしていくのです。社会、ビジネス、個人の生活など、どの分野においても変化のトレンドが、この2年ほどで10年分くらい早送りされてしまいました。それはテレワークやリモート会議の普及のスピードをみても、明らかではないのでしょうか。

ここ数十年、世界経済において大きなシフトが3つ起きました。1つはグローバリゼーション、2つ目はデジタル化です。そして、3つ目は分散化です。分散化とは、エンドユーザーがどこにいても、いつでもサービスや製品を安いコストで提供できることです。たとえば、アマゾンならわざわざ店舗に出かけなくても、注文翌日には玄関先まで商品を届けてくれます。こうした分散化が、あらゆる業界で広がっています。Zoomもそうです。会議室というインフラを省き、移動時間も節約できるようになりました。このようにパンデミックはあらゆる産業で分散化を加速させました。その結果、サプライチェーンは再編を余儀なくされました。この分散化へのシフトチェンジで最も大きなインパクトを受けたのが医療の分野です。アメリカではコロナウィルスに感染した人の多くがオンライン診療を受けました。ウィルス感染者だけでなく、パンデミックの間に精神的な不調をきたした人はわざわざ出か

けなくともセラピストとオンラインで面談し、薬を処方してもらうことができました。コロナ禍以前には、アメリカでオンライン診療を受ける患者の割合は、1%にも達しませんでした。保険の制約があつて、オンラインでの診療や処方がほとんど認められなかったことも影響していましたが、それがパンデミックによって変更され、今では 30%の患者がオンラインによる診療を選んでいます。これによって、この分野には新たな資本が投入され、イノベーションが起きているのです。

現在は少子化と AI の進化にともない予測不可能な時代にあります。AI が人間の能力を超えるシンギュラリティは 2045 年に到来すると言われていましたが、どんどん前倒しされそうです。AI がいつまでにどのように進化するのはまったく予想がつきません。それほど進化のスピードが速く、今後の予測が困難な時代にあると言えます。いわゆる生成系 AI をどのように考えるかは大きな問題です。基本的には、学びと技法の深化を目的として AI を有効かつ適切に利活用し、社会に貢献できる人になってほしいと思っています。AI に関して基礎的なリテラシーを獲得し、正負の両面から効果や影響を検討し、積極的かつ創造的に活用を進め、広めていく能力と姿勢を培ってほしいと思います。生成系 AI の利用にあたって留意すべきことは倫理的な観点や著作権、知的財産の尊重、プライバシーの保護など多岐にわたります。生成系 AI がもっともらしい回答をするのは、オンライン上に蓄積された膨大なデータを学習するからです。芸術作品を前にした鑑賞者の内的思索などは決して AI が利用するビックデータにはなりえません。皆さんに求めたいことは、手っ取り早く知識を得ようとしたり、鵜呑みにしたりすることなく、自らオリジナルの資料、すなわち第一次資料や原書、原文にあたり、読み、確かめてほしいのです。そのためには、必要な言語を修得し、異なる文化を理解する必要もあります。

数学者の藤原正彦氏は数学にとって重要なのは、論理よりも美を発見する感受性であると言っています。三角形の内角の和が 180 度という定理は、たとえ地球が滅ぼうと変わりません。この真理を見つける美的感覚は人間固有のもので、AI には決して備わってはいません。AI には本質的に死はなく、有限性がありません。人間は死という限定を抱えていて、それが悲しみや恐れ、はかなさなどの根源になっています。したがって AI は、人間に特有の深い情緒も美的感受性も持っていません。情緒も感性もすべて死に関わるものだからです。情緒が求められる数学とは、まさに「アート」なのです。

皆さんには人間の情緒や感性によって織り込まれた「アート」に生きることを大切にしてもらいたいと思います。「アート」は人が自分らしく生きて行くためのすべでもあります。人生という大海原の荒波を漕いでいくためのいわば羅針盤です。そのような羅針盤を身につけて、自分だけの道を生きて行ってほしいと思います。

本日は卒業誠におめでとうございます。心からの祝意を述べまして私の祝辞といたします。

令和 7 年 3 月 21 日
県立広島大学
学長 森永 力